



第5章 ウェルネスシティ宇陀市（第1次）の取り組み状況と評価

ウェルネスシティ宇陀市構想では、6つの分野「病気の予防と健康づくり」「子どもたちの体力向上」「介護予防と生きがいづくりの推進」「歩きたくなる環境づくり、仕事が続けられる環境づくり」「ともに支え合う地域づくり」「医療体制の確保」と「ウェルネスシティを推進する3つの方法」を達成するため、104項目の目標を設定し、各施策に取り組みました。

2013年度（平成25年度）の策定時の現状値と、2017年度（平成29年度）の各事業の実施状況などから把握した現状値を比較し、達成状況を評価しました。

その結果、「目標に達した」が57項目、「目標には達していないが改善傾向」が30項目（合わせて83.7%）計画策定時より改善しています。しかし、「数値が悪化」が14項目（13%）みられ、今後改善するための取り組みが必要です。

（1）評価区分と基準

評価区分	基準
◎	目標に達した
○	目標には達していないが改善傾向
△	数値の変化なし
×	数値が悪化

（2）達成状況

分野	指標数	◎	○	△	×
病気の予防と健康づくり	49	24	15	0	10
子どもたちの体力向上	10	9	0	1	0
介護予防と生きがいづくりの推進	6	1	1	2	2
歩きたくなる環境づくり、 仕事が続けられる環境づくり	16	9	5	0	2
ともに支え合う地域づくり	7	5	2	0	0
医療体制の確保	12	8	4	0	0
ウェルネスシティを推進する3つの方法	4	1	3	0	0
合計	104	57	30	3	14
構成比	100%	55%	29%	3%	13%

1. 病気の予防と健康づくり

(1) 食育の推進

食育推進としての評価指標の目標値には達しませんでした。啓発において「うだチャン 11」を活用し市民に幅広く広報し、保育所給食・学校給食と連携した取り組みが推進できました。しかし、長年の食習慣をすぐに変えることは難しく、今後も継続した取り組みと新たな取り組みについて検討が必要です。

重 点 施 策	平成 25 年度 現状値	平成 29 年度 目標値	結 果	評価 区分
朝食を抜くことが週 3 回以上ある人	11.6%	5% (減少)	10.8%	○
小鉢 1 杯の野菜を食べる回数が毎食の人	24.1%	50% (増加)	23.6%	×
広報・啓発	野菜たっぷりクッキング・広報・ホームページ・イベント参加	継続	レシピ集配付 500 冊作成 400 冊販売 その他継続	○
学校給食・保育所給食	給食だより 試食会・菜園活動	継続	継続	○
食育を推進するボランティアの人 (食生活改善推進員)	142 人	増加	114 人	×

【重点施策】

○ 「野菜たっぷりクッキング」のうだチャン 11 での放映

野菜を毎食食べることにつながるように、旬の野菜を使い、“身近な材料” “簡単調理” をモットーとした料理番組「野菜たっぷりクッキング」を製作し、うだチャン 11 で毎月放映しました。

○ 「野菜たっぷりクッキングレシピ集」の作成

うだチャン 11 で放映した「野菜たっぷりクッキング」のレシピの活用を目的に、放映した中からより活用しやすいものを選びレシピ集を作成・販売し好評を得ました。

○ 食生活改善推進員による食育啓発活動

住民組織である食生活改善推進員は各地域で食育推進を担った事業を展開しています。

宇陀市では会員数 114 人（29 年度）と県内で最も多いですが、市全体の高齢化が進む中、現在加入している食生活改善推進員も高齢化が進み、体調や様々な要因で退会する推進員もあり減少しています。

また、女性の社会進出が進む中、新たな推進員の育成のために養成講座を開講しても応募者が少なく、退会者が新規加入者を上回る状況のため、食生活改善推進員の増加は困難な状況です。

(2) 身体活動の増加

運動を始めるきっかけづくりや市の運動教室の整備により、運動教室の参加者が増加し、アクアグリーンや総合体育館利用者数の増加と活性化につながりました。今後は、運動実施者が継続して運動でき、また若い世代から運動できる体制づくりが必要です。

重 点 施 策	平成 24 年度 現状値	平成 29 年度 目標値	結 果 (H28 年度)	評価 区分
運動習慣者の割合 (国保特定健康診査問診票より)	男性 33.9% 女性 30.8%	男性 44.0% 女性 41.0%	男性 44.7% 女性 37.3%	◎
身体活動実施者の割合 (国保特定健康診査問診票より)	男性 45.1% 女性 42.0%	男性 56.0% 女性 52.0%	男性 50.2% 女性 44.8%	○
重 点 施 策	平成 25 年度 現状値	平成 29 年度 目標値	結 果 (H29 年度)	評価 区分
ラジオ体操の推進 (夏期ラジオ体操会)	市内 5 会場 260 人	1 会場 1,000 人	1 会場 700 人	○
運動総合対策事業	545 人	増加	4,353 人	◎
運動情報誌の発行/運動情報提供	未実施	運動情報誌年 1 回 発行	運動情報誌年 1 回 発行	◎
うだ体操DVDの作成と啓発	健康うだ 21 計画 推進により作成し たうだ体操をうだ チャンで放映	計画期間中に体操 をリニューアル作成し、 DVD を作成	26 年度に体操をリ ニューアル作成し、うだ チャン放送、HP 動画 提供、DVD 作成	◎
運動記録手帳の作成	健康うだ 21 計画 推進により作成し 啓発	計画期間中にリニ ューアル作成し啓発	26 年度にリニ ューアル作成し啓発	◎
ウォーキングマップの作成	健康うだ 21 計画 推進により作成し 啓発	計画期間中にリニ ューアル作成し啓発	26 年度にリニ ューアル作成し啓発	◎

【重点施策】

○ ラジオ体操の推進

全住民を対象とした身体活動の推進として、また市内各地域においてラジオ体操を積極的に取り入れてもらうための啓発事業としてラジオ体操会を開催し、目標値には達しませんでした。幅広い年齢層の参加につながりました。

○ 運動総合対策事業（市が実施する運動教室の整備）

市が実施する教室を見直し、運動拠点が中心となって気軽に取り組みやすい運動教室を実施してきました。今後は、運動教室を中心とし、継続して身体を動かしていくことができるよう体制を整備していく必要があります。

○ 運動情報誌の発行

運動をしていない人が運動するきっかけとなるよう運動情報誌「ウェルネス運動いろは」を発行し、市内各施設への設置や健診受診者等に啓発することで新たに運動する人が増えました。

○ 運動を推進する媒体の作成

平成 20～24 年度の健康うだ 21 計画の推進として作成したうだ体操、運動記録手帳(ウェルネス手帳)、ウォーキングマップをリニューアル作成し、運動のきっかけづくりに活用しました。

（３）生活習慣病の予防と重症化予防

健診受診率の向上や生活習慣病予防・重症化予防を中心に取り組み、受診率や精密検査受診率は徐々に増加し、要医療者やハイリスク者の割合の減少も見られましたが、目標に達しなかったものもありました。

今後も、より受診しやすい体制づくりや受診勧奨の促進、また、継続した生活習慣病予防や重症化予防に対する普及啓発や医療機関と連携した個別指導の強化が必要です。

重 点 施 策	平成 25 年度 現状値	平成 29 年度 目標値	結 果	評価 区分
特定健診を受ける人の割合	25.5%	60%	31.5%	○
特定保健指導を受ける人の割合	36.1%	60%	15.8%	×
がん検診を受ける人の割合 （地域保健報告）	胃 15.2% 肺 17.4% 大腸 22.2% 子宮 18.2% 乳 21.7%	30%	胃 18.3% 肺 16.4% 大腸 20.5% 子宮 27.7% 乳 29.2%	○
がん検診精密検査を受ける人の割合	胃 83.6% 肺 89.3% 大腸 67.4% 子宮 84.6% 乳 93.4%	100%	胃 90.8% 肺 93.6% 大腸 90.8% 子宮 70.6% 乳 98.2%	○
高血圧要医療者の割合	28.4%	減少	26.1%	◎
糖尿病要医療者の割合	7.7%	減少	10.0%	×
高血圧治療中でハイリスク者の割合	9.9%	減少	6.9%	◎
糖尿病治療中でハイリスク者の割合	7.8%	減少	6.7%	◎
喫煙者の割合	12.0%	減少	11.6%	◎
飲酒者の割合	6.1%	減少	6.8%	×

【重点施策】

○ 検診受診率向上対策（特定健康診査・がん検診）

検診の受診率向上を目指し、はがきによるがん検診の個別受診勧奨通知やがん予防推進員（けんしんすすめ隊）による啓発、受診勧奨キャンペーン、うだチャン11での受診勧奨番組の作成・放映等を実施し、受診率は徐々に向上しています。

○ 検診体制の整備

受診しやすい検診体制の整備として、宇陀市立病院総合検診の開始などの個別医療機関検診の充実や、集団検診における土日検診を実施しました。

○ 生活習慣病予防の普及・啓発

市民を対象として慢性腎臓病や喫煙・飲酒などの生活習慣病予防やがん予防についての講演会を実施し、生活習慣病やその予防について啓発しました。

○ 生活習慣病の重症化予防

生活習慣病のリスクが高い人への対策として、特に糖尿病等を中心とした受診勧奨や生活習慣改善のための指導を実施しました。

(4) こころの健康づくり

こころの健康づくりについての啓発の実施、定期的な相談の場の設置、身近に相談できる体制づくりを通して、こころの健康に対する市民の意識の向上と理解を深める取り組みを推進することができました。

しかし、こころの病気については悩みを抱える人が増える一方でまだまだ理解が十分ではないため、継続した啓発が必要です。

重 点 施 策	平成 25 年度 現状値	平成 29 年度 目標値	結 果	評価 区分
不安や悩みを相談できる人の割合	71.9%	増加	74.2%	◎
ゲートキーパー養成講座受講者	未実施	500 人 (累計)	481 人 (累計) 民生児童委員、健康づくり推進員等	○
こころの健康づくり学習会参加者数	150 人	200 人	H29 98 人 (累計 507 人)	×
こころの健康相談者数	238 人	増加	572 人	◎
7 時間以上睡眠の人の割合	51.3%	増加	53.7%	◎
ストレス解消方法がある人の割合	男 50.4% 女 60.6%	増加	男 68.7% 女 78.0%	◎

【重点施策】

○ ゲートキーパー養成講座

身近な人がこころの悩みに気づいて相談につなげることを目的としたゲートキーパーの養成講座を実施しました。健康づくり推進員・民生児童委員など地域の関係者に身近な人のゲートキーパーとしての役割について理解してもらうことができました。

○ こころの健康づくり学習会

うつについての啓発を中心に講演会を実施し、こころの健康に対する市民の意識の向上と理解を深めました。

○ こころの健康相談日

悩みがあっても相談することが難しいことを考慮し、定期的な相談日を設け広報等で啓発することで、相談しやすい体制づくりをしました。それにより新たな相談者が増えました。

(5) 歯と口の健康づくり

育ち盛り世代、働き盛り世代、高齢世代などライフステージごとの歯の健康づくりの推進として、歯科健診の充実、むし歯や歯周疾患予防の啓発、歯の健康づくりの関心を高める取り組み等を実施することで、歯周疾患検診の受診者の増加やむし歯のない3歳児・12歳児の割合が増加するなどの効果が見られました。

しかし、小学4年生・中学2年生、60歳代の毎食後の歯みがき習慣の割合は減少しており、学校と連携した取り組みの検討や壮年期の歯みがき習慣の継続など取り組みの強化が必要です。また、早期からの歯周病予防のため、若年層の歯周疾患検診の検討が必要です。

重 点 施 策	平成 25 年度 現状値	平成 29 年度 目標値	結 果	評価 区分
1 人平均現在歯数を増やす (40～64 歳)	24.1 本	26 本	24.5 本	○
1 人平均現在歯数を増やす (65～75 歳)	20.3 本	22 本	20.2 本	×
かかりつけ医をもつ割合 (40 歳以上)	83.9%	100%	86.5%	○
歯周疾患検診受診者数 (35 歳以上)	11 人	150 人	252 人	◎
1 年間に歯科健診を受ける人の割合 (40 歳以上)	59.9%	70%	66.6%	○
補助清掃用具を使用する人の割合 (40 歳以上)	51.4%	60%	57.1%	○
60 歳で 24 本以上自分の歯がある人の割合	53.8%	60%	69%	◎
毎食後歯磨きをする人の割合 (40 歳代)	13.1%	20%	16.5%	○
毎食後歯磨きをする人の割合 (60 歳代)	25.7%	30%	22.5%	×
妊婦歯科健診	未実施	実施	32 人	◎
お早め健診歯周疾患検診	未実施	実施	17 人 (28 年度)	◎
節目歯周疾患検診	11 人	増加	134 人	◎
事業所歯科健診	未実施	実施	27 年度より毎年 1 か所で実施	◎
良い歯のコンクール実施	未実施	実施	66 人	◎
歯科健康教育の実施	未実施	実施	291 人	◎
育ち盛り世代の歯科保健事業 ○むし歯のない 3 歳児の割合を増やす	72.5%	80%	84.4%	◎
○むし歯のない 12 歳児の割合を増やす	41.9%	60%	70.5%	◎
○毎食後歯みがきする 年長児	53.7%	80%	60.4%	○
○毎食後歯みがきする 小学 4 年生	69.7%	80%	44.4%	×
○毎食後歯みがきする 中学 2 年生	11.1%	20%	7.5%	×

【重点施策】

○ 歯周疾患検診の受診勧奨

受診勧奨のポスター作成と市内医療機関での掲示、広報での折込み案内から対象者への個別案内通知への変更、職域での歯周疾患検診の実施等、積極的に健診を受ける体制づくりをすることで、働き盛り世代の歯周疾患検診の受診者数を増やすことができました。

○ 妊婦歯科健診

妊婦の歯科健診は、低出生体重児や早産の予防等を目的に平成 27 年度より開始し、約 3 割が受診しています。今後も受診者が増加するよう啓発が必要です。

○ 良い歯のコンクール

市民全体の歯の健康づくりに対する意識づけを目的に平成 28 年度から開始しました。幼児から高齢者まで、また家族ぐるみでの参加も多く、幅広い対象者への啓発の機会となりました。

○ ピカピカ歯みがきの歌

幼児の歯みがき習慣の定着を目的に、作成したピカピカ歯みがきの歌とともに市内各園での歯みがきの様子を撮影し、うだチャン 11 で放映しました。市内の園児たちが出演することでより身近な内容となり、歯みがきを促すきっかけになっています。

○ 歯と口に関するポスター・標語による啓発

市内小・中学生を対象にポスター・標語を募集し、市役所での掲示や優秀賞の広報掲載等で啓発をすることで、歯の健康づくりに対する関心を高めることができました。

2. 子どもたちの体力向上

(1) 幼児期の体力向上

5 歳児の運動能力調査結果について、取り組みを始めた平成 25 年度は全国、県平均より低い結果がでていましたが、運動に積極的に取り組み、子どもたちの基本的生活習慣の確立や生活リズムの向上に力を入れたことで、年々改善され、ここ数年は全国標準値、奈良県平均より高い結果がでています。

重 点 施 策	平成 25 年度 現状値	平成 29 年度 目標値	結 果	評価 区分
運動機能平均評定値（5 歳児）の向上	2.82 点 (全国 3.00)	3.00 点	3.19 点 (全国 3.00)	◎
「早寝・早起き・朝ごはん」運動	継続	継続	継続	◎
うだ子ども元気体操事業	継続	継続	継続	◎
うだ子ども元気づくりプロジェクト	継続	継続	継続	◎

【重点施策】

○ 「早寝・早起き・朝ごはん」運動

子どもが健康でいきいきと活動したり安全を理解して行動したりするために、運動や生活習慣の確立に向けた取り組みを行い、生活に必要な習慣や態度を身につける運動を継続して実施しました。

○ うだ子ども元気体操事業

市と畿央大学が共同作成した宇陀市のオリジナルダンス「うきうきダンス」を利用し、楽しく踊って体力向上を図りました。

○ うだ子ども元気づくりプロジェクト

「走る・転がる・回る・跳ぶ・止まる等」の体操を幼児教育に取り入れ体力向上を図りました。

（２）学童期の体力向上（小学生）

各校における体力合計点平均値については、平成 29 年度の目標値を僅かに達成できていませんが、全国平均は維持しています。

重 点 施 策	平成 25 年度 現状値	平成 29 年度 目標値	結 果	評価 区分
体力合計点平均値（小学 5 年生）の向上	110 点 (全国 109)	112 点	110 点 (全国 110)	△
体力向上プランニングシートによる分析	継続	継続	継続	◎
チャレンジ駅伝の継続	6 チーム (42 人)	増加	14 チーム (110 人)	◎
夏休み水泳教室への参加	168 人	170 人	225 人	◎

【重点施策】

○ 体力向上プランニングシートによる分析

各学校において作成したプランニングシートを活用して、P D C A サイクルにより、体力向上の取り組みを継続して行っている成果だと考えられます。ただ、子どもたちの体力が二極化してきているので、運動が苦手な子どもたちを対象としたさらなる体力向上の取り組みが必要です。

○ チャレンジ駅伝の継続

総合体育館においては、小学 5・6 年生を対象に駅伝チャレンジ大会を開催しています。参加者は年々増加の傾向にあり、引き続き子どもたちの体力向上のため青少年のスポーツへの積極的な参加を促していきます。

○ 夏休み水泳教室への参加

子どもたちの体力向上の取り組みとして、温水プールでは、夏休み期間を利用して、小学 2・3 年生を対象に水泳教室を実施しています。また、より多くの市民のみなさんに温水プールに関心を持ってもらうために、無料一般開放を実施しています。

（３）学童期の体力向上（中学生）

各校における体力合計点平均値については、平成 29 年度において目標値を達成しています。また、全国平均も超えています。

重 点 施 策	平成 25 年度 現状値	平成 29 年度 目標値	結 果	評価 区分
体力合計点平均値（中学 2 年生）の向上	87 点 (全国 90)	92 点	94 点 (全国 92)	◎
体力向上プランニングシートによる分析	継続	継続	継続	◎

【重点施策】

○ 体力向上プランニングシートによる分析

各学校において作成したプランニングシートを活用して、P D C A サイクルにより、体力向上の取り組みを継続して行っている成果だと考えられます。ただ、子どもたちの体力が二極化してきているので、運動が苦手な子どもたちを対象としたさらなる体力向上の取り組みが必要です。

3. 介護予防と生きがいつくりの推進

重 点 施 策	平成 25 年度 現状値	平成 29 年度 目標値	結 果	評価 区分
いきいき百歳体操の推進	未実施	22 箇所	33 箇所 507 人（実）	◎
いきいきサロンの推進	54 箇所	65 箇所	54 箇所	△
ウェルネスシニア健康学校	未実施	120 人	92 人（累計）	○
公民館主催講座（参加人数）	2,733 人	2,800 人	1,661 人	×
自主グループの設立	42 グループ	増加	42 グループ	△
趣味が実益につながる講座の開催	11 講座	増加	5 講座	×

【重点施策】

○ いきいき百歳体操の推進

地域住民が主体的に集まり、虚弱な高齢者等でも安全に行えるレベルの体操「いきいき百歳体操」を週 1 回以上実施する、住民主体の集いの場です。地域で自立した生活を送る元気な高齢者の増加、高齢者を支え合う地域づくりを目指し、平成 28 年度から推進事業を開始し、年々この事業に取り組む地域が急増しています。

○ いきいきサロンの推進

ボランティアが主体となり、地域の高齢者の集いを月 1 回程度開催している取り組みですが、上記の「いきいき百歳体操」の会場で、「いきいきサロン」を始める等、相乗効果が生まれています。

○ ウェルネスシニア健康学校

目標値に達成していませんが、地域サロンのリーダー養成として生きがいつくり、仲間づくりにつなげるための取り組みが今後も必要です。

○ 公民館主催講座

公民館の組織体系が変更されたことにより、市の公民館主催の講座のみの集計で、各地域において独自に実施されている講座については集計されていないため目標値には達していませんが、一人でも多くの市民が参加していただけるよう今後も取り組んでいきます。

○ 自主グループの設立

設立後短期間で解散するグループもあるので、継続して活動できるよう今後は設立後の支援が必要です。

○ 趣味が実益につながる講座の開催

アンケート調査等を実施し、市民の学習ニーズを十分把握する取り組みが今後も必要です。

4. 歩きたくなる環境づくり、仕事が続けられる環境づくり

(歩きやすい道づくり)

重 点 施 策	平成 25 年度 現状値	平成 29 年度 目標値	結 果	評価 区分
自転車道や歩道の環境整備	適切な整備	継続	継続	◎
健康遊具設置 都市公園健康器具設置事業	7 公園	10 公園	10 公園	◎
各公園管理運営事業 ▪ 平成榛原子供のもり公園	66,424 人	68,000 人	68,746 人	◎
▪ ワールドメイプルパーク	20,070 人	35,000 人	37,716 人	◎
防犯灯の新設、LED化	7%	70%	58%	○

【重点施策】

○ 自転車道や歩道の環境整備

道路面の維持補修及び除草・街路樹の剪定をいい、目標・結果の継続とは、維持管理業務であり、毎年継続して実施する必要があります。

○ 健康遊具設置

目標値を達成しました。

○ 各公園管理運営事業

市民の体験や憩いの場、市外からの来訪・交流の場として、快適な公園緑地空間の維持管理を図ります。

(農作業に親しむ健康づくり)

重 点 施 策	平成 25 年度 現状値	平成 29 年度 目標値	結 果	評価 区分
6次産業化の推進	未実施	3 件	3 件	◎
農地の活用と市民農園の整備 東榛原市民農園整備事業	施工中	施工中	完了	◎
野菜直売所の活用（納入者数）	会員数 400 人	450 人	440 人	○

【重点施策】

○ 6次産業化の推進

商品開発補助金を利用し、市内の農産物を活用した6次産業化の推進を図りました。今後も同様に市内の農産物等を活用した6次産業化に取り組んでいきます。

○ 東榛原市民農園整備事業

施工済みです。農園は平成30年4月1日開園しました。

(にぎわいのまちづくり)

重 点 施 策	平成 25 年度 現状値	平成 29 年度 目標値	結 果	評価 区分
室生寺周辺にぎわいづくり事業	3,000 人	7,000 人	6,000 人	○
松山地区魅力創造事業・まちなみ環境整備事業	整備計画 69%	70%	95%	◎
宇陀松山城跡登城道整備事業	4%	完成	完成	◎
薬草のまちプロジェクト事業 薬草講演会	未実施	500 人	200 人 ※台風により2日目が雨天中止。	○
薬草のまちプロジェクト事業 薬草栽培	未実施	80 人	80 人	◎
記紀万葉プロジェクト事業（ハイキング事業他）	900 人	800 人	700 人	×
観光施設、観光資源の整備事業 （ハイキングロードの看板整備）	8 箇所	30 箇所	20 箇所	○
榛原駅前周辺の総合施設整備事業 （産直販売）	未実施	70%	一部用地買収	×

【重点施策】

○ 室生寺周辺賑わいづくり事業

ライトアップをすることもあり、ほぼ目標値を達成しました。

○ 松山地区魅力創造事業・まちなみ環境整備事業

目標値に達成しました。

○ 宇陀松山城跡登城道整備事業

平成 29 年度に終了しました。

○ 薬草のまちプロジェクト事業（薬草講演会）

薬草講演会について、天候の関係で人数が目標に届きませんでした。

（平成 30 年度においては、第 7 回全国薬草シンポジウムを開催し、全国から薬草ファンが多数宇陀市に
来られ 5,000 人が参加し、目標を大幅に達成することができました。）

○ 薬草のまちプロジェクト事業（薬草栽培）

市内全域で大和当帰を栽培し、当帰の根と葉を出荷することができました。今後は新たな品種として、セネガ、アマチャの栽培にも取り組んでいきます。

○ 記紀万葉プロジェクト事業（ハイキング事業他）

目標値には達成していませんが、今後も参加者を増やす取り組みが必要です。

○ 榛原駅前周辺の総合施設整備事業（産直販売）

事業について中止したので、今後、事業内容を見直し取り組みます。

5. とともに支え合う地域づくり

重点施策		平成 25 年度 現状値	平成 29 年度 目標値	結 果	評価 区分
まちづくり協議会の設立		6 地域	20 地域	22 地域（全市）	◎
高齢者お知らせ隊		17 事業所	拡大	18 事業所	○
高齢者サポート隊		4 団体 (8 自治会)	20 団体	9 団体 (45 自治会)	○
高齢者見守り支援事業（コールセンター方式）		40 件	50 件	79 件	◎
地域ケア会議（高齢者の暮らしを支える懇話会）		未実施	拡大	5 地域×2 回 427 人	◎
認知症の人や家族支援の充実 認知症サポーター養成講座受講生		累計 31 人	1,300 人	1,365 人	◎
認知症高齢者の徘徊への対策	「行方不明高齢者等あんしん登録事業」H29～	未実施	実施	10 名	◎
	「あんしん介護見守りGPS貸与事業」H29～	未実施	実施	2 人	

【重点施策】

○ まちづくり協議会の設立

平成 25 年度から各地域でまちづくり協議会の設立に取り組み、平成 30 年 3 月 30 日に大宇陀中央まちづくり協議会神戸会が設立したことで、市内全域での設立を達成することができました。「自分たちの地域は自分たちでつくる」という考えのもと、地域ぐるみで住みよい地域の実現に向け課題を解決していくための新たな組織としてまちづくり協議会ができました。

○ 高齢者お知らせ隊

高齢者の孤独死を未然に防ぐことができました。又、高齢者サポート隊では、「顔の見える関係づくり」による地域のつながりが強化されています。

○ 高齢者見守り支援事業（コールセンター方式）

移行件数が増加し、在宅での安否確認が強化されました。

○ 地域ケア会議（高齢者の暮らしを支える懇話会）

医療・介護等の専門職をはじめ、NPO、社会福祉法人、ボランティア、民生委員、自治会長、まちづくり協議会など地域の多様な関係者が協働し、高齢者が住み慣れた地域で暮らし続けるための地域課題を明らかにし、地域全体で支援していくための方策について検討しています。平成 27 年から事業を開始し、目標値は設定していません。平成 28 年度のテーマである地域の集いの場として、いきいき百歳体操に取り組む地域が急増しました。地域のつながりを再構築できる取り組みにつなげることができました。

○ 認知症の人や家族支援の充実

認知症について正しい知識を持ち、身近な認知症の方や家族をあたたく見守るサポーターとして、「認知症サポーター養成講座」を実施しています。

○ 認知症高齢者の徘徊への対策

平成 29 度から「行方不明高齢者等あんしん登録事業」「あんしん介護見守りGPS貸与事業」を開始し、認知症等で行方不明となった人の支援体制を整備しました。

6. 医療体制の確保

重 点 施 策		平成 25 年度 現状値	平成 29 年度 目標値	結 果	評価 区分
高齢化に伴う必要な医療体制の確保 宇陀市立病院事業		病床稼働率 67.3%	地域包括ケア病 床稼働率 80% レスパイト入院 10 人	地域包括ケア病 床稼働率 80.3% レスパイト入院 10 人	◎
救急医療体制の検討		救急患者 86% (受入 72.4%)	救急患者 88%	救急患者 86.6%	○
宇陀地域医療介護連携 ICT 導入推進事業の 検討（奈良県が推進するモデル事業）		未実施	宇陀地域医療介 護連携 ICT 導入 推進のためシス テムを構築する	H28 医療介護従 事者における検 討協議会を開始 H29 法人化組織 を立ち上げ、試行 運用開始	◎
在宅医療・介護連携支援拠点の設置 (医療介護あんしんセンター)		未実施	実施	設置	◎
介護保険費用額の内「在宅サービス」がしめる 割合		41.2%	45%	H29 年度 41.2% (地域包括ケア 見える化指標：厚 生労働省)	○
「私のあんしん手帳・ファイルの配布」 医療と介護に関する高齢者の情報を記載でき、医療 機関の受診時や介護サービスを受ける時などに活用 する手帳とファイル		未実施	—	1500 配布	◎
医療・介護の多職種連携会議の開催		未実施	年 6 回開催	4 回	○
地域医療連携会議の開催		未実施	年 4 回開催	3 回	○
地域包括ケアシステムについて市民への啓発 講演会		未実施	年 1 回開催	1 回	◎
宇陀市医療講演会事業		生活習慣病予防 「高血圧症」 (245 人)	年 1 回開催	生活習慣病予防 「飲酒講演会」 (120 人)	◎
認 知 症 の 早 期 相 談、早 期 診 断 の 推 進	認知症の相談対応	87 件	—	104 件	◎
	認知症初期集中支援チーム 対応件数	未実施	—	40 件	
	認知症ケアパスの作成（県下初）	未実施	—	平成 27 年度 作成	◎

【重点施策】

○ 高齢化に伴う必要な医療体制の確保（宇陀市立病院事業）

病床稼働率については、毎年増加しており、平成 29 年度の目標値に達しています。今後も地域包括ケア病棟を中心に稼働率向上に努めます。またレスパイト入院については、毎年 10 名前後で推移しています。今後も啓発活動を推進します。

○ 救急医療体制の検討

救急患者受入率は、平成 29 年度の目標値は下回っていますが、年々増加し 86.6%まで向上しています。

○ 宇陀地域医療介護連携 ICT 導入推進事業の検討

検討協議会を立ち上げ ICT 導入について検討し試行的運用を開始しています。今後も継続して推進し、システムの構築等体制を整えていきます。

○ 宇陀市医療講演会事業

市民の健康意識の啓発のため、今後も来場者の啓発に取り組みます。

○ 在宅医療介護の連携拠点の設置

平成 27 年度から医療介護あんしんセンターを設置し、「在宅医療・介護連携事業」を開始しています。

① 病診連携の推進体制の検討

② 地域医療連携会議の開催

③ 医療・介護の多職種連携会議の開催

④ 地域医療包括ケアシステムについて市民への啓発講演会

○ 認知症の早期相談、早期診断の推進

認知症予防、早期相談対応に向けて、認知症の状態に合わせた適切なサポートを受けるための情報誌「認知症予防とケアのガイドブック～宇陀市認知症ケアパス～」を県内の市町村に先駆けて発行しました。

さらに、平成 28 年度からは、医療介護あんしんセンターに、認知症初期集中支援チームを設置し、認知症の早期発見、早期相談対応を支援しています。

7. ウェルネスシティを推進する3つの方法

重 点 施 策	平成 25 年度 現状値	平成 29 年度 目標値	結 果	評価 区分
ラジオ体操の普及	未実施	実施場所 50 箇所 参加者 1,000 人	36 箇所 678 人	○
健康ポイント	未実施	応募数 1,500 件	1,621 件	◎
ウェルネスイベント	未実施	10,000 人	9,667 人	○
けんこうマイメモリー事業	未実施	300 人	平成 28 年度健康 マイメモリー（100 人） 平成 28 年度打ち 切り後、マイメモリー （89 人）・マイメモ リエクササイズ（709 人）・ インボディ測定会 （114 人）	○

【重点施策】

○ ラジオ体操の普及

自治会を中心に定期的に啓発した結果、目標値に達成していませんが、毎年、実施場所や参加者が着実に増加してきています。今後も引き続き実施し、さらにアンケート調査の結果で、効果があったことを中心に広く啓発して取り組んでいきます。

○ 健康ポイント

応募者を増やす施策として特別参加賞やボーナスポイントを追加するなど取り入れたこともあり、目標値以上に達成することができました。応募者は50歳以下の割合が少ないことから、今後は、若い世代の応募者を増やす取り組みが必要です。

○ ウェルネスイベント

天候不順の影響もあり、目標値を達成することができませんでした。イベントの内容によっては市外の参加者が多いものもあり、今後はウェルネスイベントとしての内容、目的に沿った、市民参加型のイベントづくりを進めていきます。

○ けんこうマイメモリー事業

民間業者の事業の打ち切りがあり、その影響から目標値に達成できませんでした。しかしながら、その後けんこうマイメモリー事業の参加者を対象に、けんこうマイメモリーを活用し効果的な運動につなげるため、マイメモリーセミナーを実施しました。また、有酸素運動や筋肉トレーニングなど基本的な運動について学べるマイメモリーエクササイズを実施し、健康意識の維持に努めました。さらに、インボディ測定会等器具を活用して、自身の身体の状態を知り、生活習慣改善に役立てました。今後も運動を促進する取り組みをしていく必要があります。